

事業評価調書（新規）

| | | | | | |
|--------------|-------------------------|---------------------|-----------------------------|----|----------------|
| 事務所名 (課名) | 農林水産部 農林水産局 農村環境課 | 記入責任者職氏名 (担当者氏名) | 課長 村上 主直 (主幹兼田園空間係長 新見明) | 内線 | 3931 (4028) |
|--------------|-------------------------|---------------------|-----------------------------|----|----------------|

| | | | | | |
|---|---|-------------------------------|--|-------------|-------------|
| 事業種目 | 農村総合整備 | 事業名 | 事業区間 | 総事業費 | 12.4億円 |
| | | 農村振興支援総合対策事業 (元気な地域づくり交付金) | 大河内地区 | 内地地補償費 | |
| 所在地 | | | 事業採択 予定年度 | 着工予定 年 度 | 完成予定 年 度 |
| 神崎郡神河町 | | | H19 | H19 | H20 |
| 事業目的 | | | 事業内容 | | |
| <p>平成17年11月に合併した神河町（旧神崎町、旧大河内町）において、旧神崎町で平成12年～13年に整備したCATV網を旧大河内町域に拡張し、新町住民間のコミュニティの構築や都市との交流を推進するほか、生活の利便性向上等を図る。</p> <p>・県計画における位置づけ ひょうご農林水産ビジョン政策項目 「人集い、住まう活力ある農山漁村づくり」</p> <p style="text-align: center;">【事業主体：神河町】</p> | | | <p>情報通信インフラ整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存情報センター増改築 1式 ・センター設備の増設 1式 (送出設備、気象観測設備等) ・伝送ケーブル設備 101km(光ケーブル) <p style="text-align: center;">【負担割合 国：10/30、県：3/30、町：17/30】</p> | | |
| 評価視点 | 評価結果の説明 | | | | |
| (1)必要性 | <p>神河町は合併直後であり、旧神崎町域で実施しているCATVを活用した各種行政サービスを全町域に広げ、新町住民間のコミュニティの構築を推進する必要がある。安全・安心な生活のため、CATVの画像送受信機能を用いて、辺地の農村部に急増している独居老人の支援体制や、登下校中の学童の見守り体制を構築する必要がある。災害時の危機管理のため、河川水位監視システムや気象ロボットのデータに基づき、避難勧告などの防災情報を各戸に告知する防災システムを構築する必要がある。過疎地域対策として団塊世代の帰農や都市交流を促進するため、CATVによる都市並の利便性確保やコミュニティ・ビジネスの起業を進める必要がある。地区の約4割を占める難視聴区域の共同受信システム（昭和50年代中頃整備）の老朽化が著しく、これに変わるTV受信システムが必要である。</p> | | | | |
| (2)有効性・効率性 | <p>CATVの活用は、行政経費節減、防災等の安全性向上、都市との交流拡大、農作物増産等に有効である。</p> <p style="text-align: center;">費用便益比 1.18 (効果額1,689百万円、投資額1,430百万円)</p> <p>CATVを活用した情報の受発信により、町行政、防災、教育、地域活動等への住民の参加意識が向上する。(旧神崎町域の実績より)</p> <p>神河町によるCATVの施設運営において、旧大河内町民による加入者増加で、より効率的な運営が可能となる。</p> | | | | |
| (3)環境適合性 | CATVの活用において、広報誌等のペーパーレス化を実施する。 | | | | |
| (4)優先性 | <p>旧町間においてCATVを利用した各種行政サービスの格差をなくすため、緊急に全町域にエリアを拡大することが必要である。</p> <p>神崎郡内に山崎断層が通過していることから、防災体制確立の一環として緊急にCATV整備が必要である。</p> | | | | |